

第六十五代花山天皇

安和元年(968)10月26日生まれ

寛弘5年(1008)2月8日崩御 41歳

冷泉天皇の第一皇子 御名師貞 法名入覚

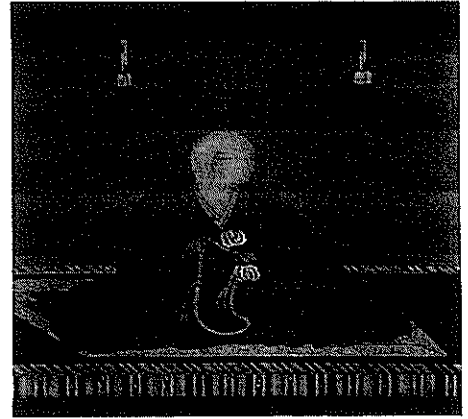
母は藤原伊尹の娘・懐子 女御・藤原低子

即位・永観2年(984)8月27日

退位・寛和2年(988)6月23日

御陵・紙屋上綾(衣笠北高橋町) 元治元年(1864)治定

勅願所・小北山北道通り 菩提樹山 法音寺(裏面参照)



花山天皇御宸影 提供元慶寺

花山天皇は17歳で即位し、義父伊尹は権大納言から摂政になり、天皇を助けたが伊尹の死後天皇は孤立無援となった。

天皇は女御低子を熱愛したが即位の翌年病死した。天皇が悲嘆にくれているのに乗じ、藤原兼家が息子道兼と計り、天皇を山科の元慶寺へ連れ出して出家させ、讓位をさせてしまった。(寛和の変)

天皇が大内裏を出る時、偉鑿門(いかんもん、大内裏外郭北面中央の門)から出立したので、その後この門は不開の門となった。偉鑿門は初め玄武門といわれ、その後、猪使門、猪飼門ともいった。

出家後は安隱を祈って仏法修行に励み、播磨に行き、さらに比叡山で回心戒を受け、また熊野に行き仏道を修めた。また諸国の古社寺を巡礼したことから西国三十三所巡りは法皇の創始という伝説が作られたが、書写山と那智山以外は御幸の事実は認められないという。

また絵画、和歌に巧みで風流好みで知られた。

「花山院集」「拾遺抄」「拾遺和歌集」「大和物語」「往生要集」等がある。

陵墓は小円墳で陵上に菩提樹が植えられている。

“こち風はこほりとくとも春霞

立つはじめをば吹きな乱りぞ”

^{ひねもすよ}
“終夜きえかへりつる我が身かな

涙の露にむすぼほれつつ”

“旅の空夜はの煙と上りなば

あまのもしほの火たくからしや”

“木の下をすみかどすればおのずから

花見る人になりぬべきかな”

“うらよりもむらにいでぬるみちなれば

これぞほとけのみちになるらん” (辞世)

(山本喜康)

法音寺

浄土宗西山禅林寺派 菩提樹山法音寺

日本紀略にも見え、寺伝によれば慈覚大師円仁の創建と伝えられ、平安時代の諸書にもこの寺が記載されている。

応仁の乱以後、度々火災にあっているが、その都度再建され、花山天皇の勅願所となると共に、西国三十三所霊場復興所の本山とされる。



法音寺

本尊 阿弥陀如来

本寺は大文字五山送り火、左大文字の発祥地。旧大北山村の菩提寺で、村内三十余戸が主体となって本寺において施餓鬼会を行い、その時の燈明から大松明に火を移して親火とし、全員が隊列を組んで山へ登り、点火儀式を行う。護摩木は午前中金閣寺で受ける。

現在も衣笠街道町周辺の人々によって承継されている。

法音寺略記

<p>京都府山城國葛野郡衣笠村大字大北山 法宗衣鉢金津上宗西山派 菩提樹山法音寺</p>	<p>一本尊阿彌陀如来 脇立 觀音 聖德太子菩薩</p>	<p>事由 天慶九年創立開基慈覚大師 仁明天皇御 歸依菩薩 若臣善福福國宗家宗室祈願ノ為三字 ヲ創立シテ菩提樹山法音寺ト稱シテ 花山 院天皇此宗ヲ敕處テラセリシテ勅願所ノ御給 旨ヲ懸リ言テ彌歸ト稱シ七堂伽藍ヲ造リ諸 餘ヲ建整テ天下ノ名勝ナリ</p>	<p>花山院天皇御遺勅ヨリ善行殿ヲ法之自寺中北ニ 奉葬御陵現在諸人ノ知ル所ナリ大降元應仁年 中ニ山石細川ノ為ニ兵火ニ罹リ名號諸殿堂ニ悉ク 燬辰ノ其後後前之通再建亦延應年中壬辰台火災 シ後地花山院天皇ノ御陵前ニ有之此地ニ移リ年月 不詳其後小堂二字再建之亦元禄年中火災ニ後 小堂二字再建之佛像 天皇御尊牌ヲ安置ス</p>	<p>奉一 小堂大破 貞明治十二年六月修葺ス 寺領 五石石勒懸 寺面紫二枚 純金欄 家袋二枚 筋 堀下 桑下 菩提樹山御遺尊等ヲ 花山院天皇之 御日記ニアリ</p>
--	----------------------------------	--	--	--

「法音寺略記」中の年代

天慶元年 938年

延應年中 1239年

應仁年中 1467年～1468年

第61代朱雀天皇の御代

第87代四条天皇の御代

第103代土御門天皇の御代